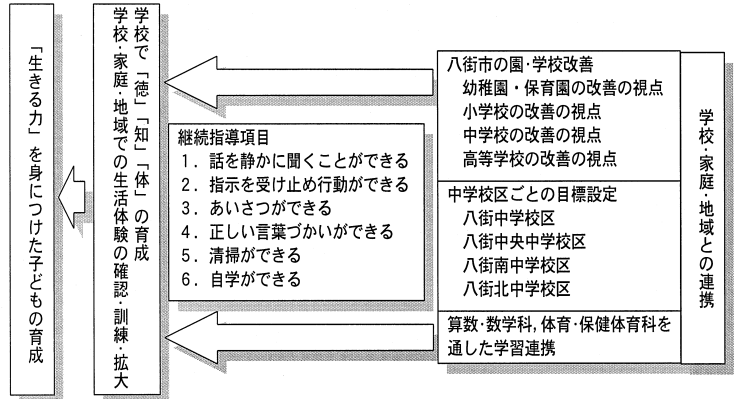


問 児童生徒のための豊かな心を育む教育にどのように取り組んできたのか、また今後どのように取り組んでいくのか。

教育長 幼小中高連携教育においては、児童・生徒の今を大切に、自己肯定感を高める中で、将来の夢を大きく、その実現へ向けての努力を重ねられるよう力を育てる教育を展開し、成果を上げているところです。

学校教育の振興



たのか、また今後どのように取り組んでいくのか。

教育長 今まで「きめ細かな指導の充実」は、算数・数学等の教科の学習時間における少数学習が中心でした。特定の教科の時間だけでなく、学力全般の問題や、いじめ・不登校等生徒指導面を含めて対応するために、学級を弾力的に増設しています。

今年度、小学校8校のうち5校、10の学年で、中学校4校のうち2校、3つの

今後、これまでの取り組みを一層充実させ、家庭や地域との連携を図り、学校の教育活動全体を通じて、一人ひとりの豊かな人間性を高め、いけるよう努めていきます。

問 学力等の伸展のための「きめ細かな指導の充実」にどのように取り組んでいくのか。

教育長 特殊学級で学んでいる児童・生徒は、現在120名を数えます。通常学級の中にも、LD（学習障害）やADHD（注意欠陥・多動性障害児）、高機能自閉症といった症状の傾向がある児童・生徒が見られるようになってきています。平成17年度からは、各小中学校に特別支援コーディネーターが校務分掌に位置づけられました。

今後、これまでの関係機関の有効な活用を一層推進し、また特別支援教育のネットワークを広げていきたいと考えています。

学年で弾力化の恩恵を受けて新学期をスタートしている。1学級当たりの児童・生徒数を減らすことにより、常時児童・生徒理解を中心としたきめ細かな指導の充実ができるように努めます。また、今年度より算数・数学・保健体育の地域指定を受け、連携教育を基盤とした取り組みを推進しています。

問 障がいのある児童生徒の教育の充実にはどのように取り組んできたのか、また今後どのように取り組んでいくのか。

教育長 市内の教員の資質向上のために教育委員会では、どのような施策を実施されているのか。

誠和会

山本 義一
山本 邦男
古川 宏史
北村 新司
横田 義和
中田 眞司

個人質問 北村 新司

教育問題

問 市内の教員の資質向上のために教育委員会では、どのような施策を実施されているのか。

教育長 市教育委員会では、八街市教育センターという組織を作り、研修部と教育計画部、調査部に分かれ、研修部では教職員の資質向上を目指して研修を行っています。

指導法研修会には、道徳指導法研修会、学校体育研修会、情報教育研修会、中学校学校群研修会、学校人権教育研修会があり、さらに、体験・視察研修会として、教務主任優良校研修視察、企業等体験研修があります。

問 全国的に教職員の不祥事がマスコミ等で報道され



て問題になっているが、不祥事防止のための施策としてどのような努力をされているのか。

教育長 1つ目は、教職員一人ひとりが公務員としての倫理観を高揚させていくことが重要です。個人の意識だけに任せておくのではなく、さまざまな研修の機会に、不祥事防止の啓発を強化し、職員の監督・指導の強化を指導徹底しています。

2つ目は、学校の組織、事務処理体制の再検討を行っています。文書管理や金銭出納事務は、管理職のもとで複数の教職員で組織的に、適切に管理処理されるようにしています。

問 指導力不足教員が問題になっているが、本市にはそのような該当する教員が在職しているのか。もし在職しているのであればどのような対策をされているのか。

教育長 ご質問に該当する職員は、1名在職しています。県の制度で特別研修制度が設けられており、2年間の研修期間が与えられています。

3つ目は、人事管理のあり方について再確認しています。教職員の任命権者である県教育委員会の指針に基づいて、不祥事防止の対策として「懲戒処分のある方」について再確認し、日常、全職員に校内研修などで啓発をしています。

4つ目は、教職員のメンタルヘルス対策が挙げられます。教職員の不祥事対策の取り組みとして極めて重要なポイントであり、教職員が心身ともに健康な状態で教育活動に取り組むために必要なメンタルヘルス対策です。日常から職員間のよりよい人間関係づくりを促進し、何でも相談できる機会の場を大切にしています。